# 資本主義の寿命など

## 選挙は彼等に両刃のヤイバ

**組織労働講座** (21)

（一）　衆院選挙運動が激しい。自民党は資本主義体制の擁護を社会共産両党は社会主義社会の実現をそれぞれ根幹目的にすえ、その線にそった各種の公約を発表している。三党のそういう選挙公約がいま私の机上の「朝日新聞四月二十六日号」に載っている。そのなかで労働問題関係の自民党公約をみると、それは三項目に分けられてある。簡単にいうとこうである。その一は国民年金制、その二は国民皆医療保険、その三は労働秩序の確立、公益を害する争議行為の規制、最低賃金制の実施。

（二）　自民党は彼等自らがよく主張するように資本主義を守ることをその最大の任務とする資本主義政党である。ではおよそ資本主義を一体何から守らねばならぬかといえば、その中心は勿論労働者階級の労働運動、社会主義の実現を期しての階級闘争からである。そういう強力な階級闘争を抑える手だてとして、その重要な一策に無産者にも参政権を与えるところの普通選挙権がある。

べつにいまの社会のしくみを社会主義の方に変えなくとも政治のやりよう政治家の人物次第でおのがくらしは結構によくなるものであると思う人々ばかりならば、普選権の付与は、労働者をしてくらしのためになる政治を数年に一度の一票行使に期待させることにより、社会主義への願いと闘争からいよいよ遠ざけておく、という効能をたしかにもつ。しかしそれでも歴史が事実をもつて示すように社会主義政党はやはり勢をましてきている。社会主義の社会が現実に生れ育つてさえいる。生活を資本主義ではなしに社会主義に託してこそ幸福になれると思う人々が歴史の進行とともに多くなつてきているからであり、そう思う人々はその思いを誰はばかる要もない秘密の投票に籠込めることができるからである。要するに普選権は資本主義にとつてはモロハのヤイバであるが、そういう普選権を付与したからには資本主義の守護政府とその政党は、労働者のくらしにとつて現実に足しとなる所の政策、社会政策、社会保障の付与に努めなければならなくなる。なぜなら、投票は秘密であり、秘密であるが故に、投票者を心底から資本主義政党にひきつけぬことには資本主義政党の優位を期しにくいからであり、そのためには労働運動へのわくはめだけではいよいよ駄目であり、実行されぬ公約はやがて逆効果を来たしやすいからである。

（三）　しかし社会政策や社会保障はそれがほんものであればあるほど資本家や資本主義政府にカネの負担をかけるものである。それは実施の財源として労働者階級やその他の勤労層のさみしいフトコロを掛金や保険料や大衆課税という形で、ねらうときにはねらえばねらうほどにウソの社会政策、ウソの社会保障になり、勤労国民のくらしの足しにはならなくなる。勤労国民は左手に与えられたものを実は右手でうばわれるまでのことである。

（四）　さてそこで自民党の公約であるが、労働秩序の確立、争議行為の規制が何を意味するかは、昨今の教員勤務評定問題、衆院解散後ついさきごろ行われた日教組幹部家宅捜索、全逓、全電通に対する春闘大量処分が教える通りである。そしてこれが階級闘争の中心部隊となり、あるいはなり易い大経営体の労働者に対する闘争のわくはめであることはいうまでもない。くらしの足しになりそうな恰好の労働政策はといえば、国民年金と国民皆医療保険と最賃制である。年金についていえば、すでに、まことに貧弱ながらも厚生年金保険、船員保険、公務員や私立学校教員関係の恩給や共済組合をもつているおよそ一、一〇〇万人を除く約五〇〇万の零細（五人以下従業員）企業や臨時、日雇など総じて未組織ないし弱組織労働者と、国民の半ばを占める農漁民零細商工者に対して、生活はこれを資本主義とその政府、党への投票に託して足るものなりと思わしめるためのもの。国民皆医療保険もおおむね同様。

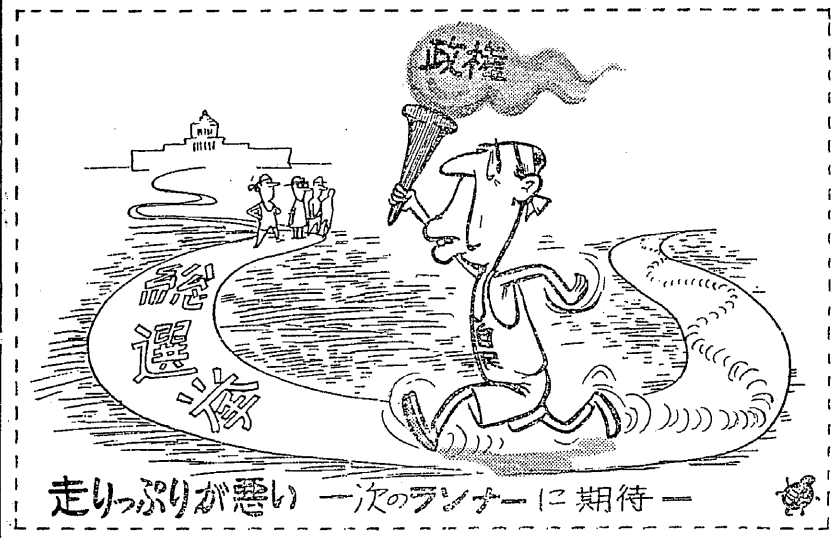
最賃制については、主として未・弱組織の労働者の賃を、強い大単産組織をもつてする労働運動・階級闘争・社会主義とその党につなぎとめるためのもの。その最賃法案は社会党の反対によつて廃案となつた。そうなればなつたで自民党はいう。例えば先月二十八日東京日比谷公会堂での自民党演説会で石田労相は、社会党を目して「総評におもねつて中小企業労働者を見捨てる反労働者党である」と。最賃法政府案がその成否如何にかかわらず、強大組織の労働者や社会主義政党から未・弱組織労働者をひきはなすために宣伝されていることは、かくて政府自身の強調によつても明らかである。

（五）　自民党の公約が反資本主義勢力の増強を未然に防ぐための分裂策だとしても、しかしその資本主義の上に立つ公約内容が勤労国民のくらしを将来とも真実にたかめてくれるものであるならば、われわれ勤労階級は秘密の一票を自民党とその右のような分裂政策に賛意をこめて投ずることになろう。またもし、資本主義政府や資本家にカネの負担をかけないために、約束はしても実行はしないとか、実行しても、それがかりにちようどさきの最賃法政府案のように、総評や社会党をして、この法案は名は最賃法でも実は賃金を最低にする最低の法案なりとして反対させるようなそういうものをしか実行しないとか、あるいは勤労所得の再配分や資本用国家財政資金の吸い上げ（厚生年金保険が正にそうであるといわれているように）におわるような国民年金・国民皆保険制度を実施するとか、ということであるにしても、それでもそういう公約は、これがない場合にくらべてはいくらかより多くの票を資本主義の方に、あるいは吸いとるかもしれない。

けれども、有権者は成長しつつある。自民党の公約内容は、もし彼らが資本主義をあくまで守ろうとするならば、多少の負担を国家財政と資本利潤とにかけて実行するところのホンモノの社会政策・社会保障でなければ遂には効き目がないであろう。労働者生活の現実の向上を確保する力を資本主義とその政府・党がみせてこそ資本主義は安泰であり、逆に社会主義政党・階級闘争は消えてなくなるであろう。労働生活の苦しさを解消し去る力をみせようにも、資本主義にはそのみせる力そのものが万一もない、あるいはなくなりつつある、というのであればそれは資本主義とその政党の寿命にとつて由々しいことである。そのどちらであるかは、これまた、自民党政治をみつめつつ現実に生活している有権者が、試行錯誤のなかからしだいに正確にみきわめられるようになつてきている。

有権者による判断の帰すうを、ほどない投票結果が示するのが待たれる。

（Y・M生）




# 島では最大の行事

## 高島、端島でのメーデー

第二十九回メーデーの五月一日は全国各地で盛んな労働者の祭典が開かれた。メーデー実行委員会の発表によるとこの祭典は五百七十カ所でひらかれ、四百三十万が参加し戦後最大のメーデーと発表している。重点ストライキに突入している崎戸、高島もそれぞれ盛大な祭典が開催されたと次の通り北海、平島指導オルグより報告があつた。

### 地協の同志も来島

【高島】メーデー前夜祭は島の中央にある会社施設の協和会館という約一千名位収容できる映画館で昼夜二回開かれた。当日は折悪しくの風雨で、参加者が少いのではないかという心配もあつたが、ストライキと娯楽施設の少いことなどが理由して場内立錐の余地のないほどの入場で「高島のうたごえ」で幕が開かれなごやかな中に平和なメーデー前夜祭が終つた。

五月一日は前日とうつて変つた天気で離島の天候変化には驚くばかりです。

予定の九時三十分頃になると、八地区よりそれぞれ工夫をこらした仮装や花山が繰り出して来た。組合長の話によるとストライキでこんどは花山も相当力作がありますよといつていた通り、地球に平和の虹をかけたもの、地球よりの人工衛星発射、大象などそれぞれ三池に負けないような傑作で、高島はじまつて以来の大メーデーが開かれた。

高島地区の統一メーデーは労組、職組、主婦および長崎市より約四十名の造船、全逓、鉄鋼、私鉄など地協の同志が来島、二千三百人位の渠りで開かれた。

式は型通り行われ、重点ストに対する関心から激励が多数来ていたのは印象的であつた。なお大会終了後、花山や仮装隊の審査があつたが、中でも高島労組の闘魂を現わすエピソードがあるので紹介しよう。

仮装隊の中に鉱夫に引かれた資本家がいた。舞台上に上つて

鉱夫「タツタ三百円ぢやどんこんしよんなかけん、モツト上げてもらいたい」

経営者「三百円より絶対あげられん」

鉱夫「そんならしよんなかけん徹底的にやるぞ」

経営者「こちらもそれを上廻る闘いを組むぞ」

一寸した会話だが舞台の上での思いつきではできないことで、これこそ高島の組合員が徹底的に抵抗してくる会社に長期戦で当る覚悟を示したものであると思つた。

### スト中で大張切り

【端島】近況をお知らせします。座談会に出ると必ずといつていい位「ストライキ」はいつまで続くと思うかとか、情勢の見透しはどうかなど聞かれる。しかし、私は必ずこうなりますという結論はいえない。闘争には相手のあることだし、やつてみなければ結論は出て来ないのが当然だと思う。だがそういう無責任なことで問題が処理されるものではないし、中央などに電話連絡などをしてみると、一応私は私なりに情勢の判断はつく。今日に至つても会社側は相当強固に抵抗する意志を固めているようだし「われわれがまいりました」と折れない限りは、相当長期化になることは闘いの当初分析していた通りである。

四月二十九日はこのような状況をも勘案して九州地区スト突入三支部（山野、高島、崎戸）のオルグ交流総決起大会を開催した。午前九時より中央グラウンドに組合員と家族約三千名が闘争を最後まで闘いぬくことを意志統一し、中央に対する激電と、三菱本社伊藤社長に対する抗議電を採択し、社宅内をデモの後解散した。

四月三十日はメーデ前夜祭が行われた。朝からあいにくの雨で中央グラウンドに特設した舞台も台なし。おそらく大牟田の前夜祭も同様だろうと思うと残念でたまらぬしかし、あきらめるより外ない。会場を崎戸劇場（会社所有）に移し、午後六時三十分より盛大な前夜祭を行つた。崎戸楽団の演奏や炭鉱節を、どの様な仮装でもよし振付けでもよいということで行つた。

各地域分会対抗の競演はまつたく奇抜な踊りもあるものだと感心する位笑わせられた。主婦会、商店組合、生活協同組合、行動隊、職組、鉱組対抗のメドレー・ゲームたが、中でも高島労組の闘魂を現わすエピソードがあるので紹介しよう。

仮装隊の中に鉱夫に引かれた資本家がいた。舞台上に上つて

鉱夫「タツタ三百円ぢやどんこんしよんなかけん、モツト上げてもらいたい」

経営者「三百円より絶対あげられん」

鉱夫「そんならしよんなかけん徹底的にやるぞ」

経営者「こちらもそれを上廻る闘いを組むぞ」

一寸した会話だが舞台の上での思いつきではできないことで、これこそ高島の組合員が徹底的に抵抗してくる会社に長期戦で当る覚悟を示したものであると思つた。

# 県当局へ意見書

## 荒尾教委会が勤評反対

勤務評定実施を政府は強行しようと漁つているが、日教組はあくまでこれを反対、強力な闘争を組織して実施阻止へと闘つている。こういうとき、荒尾市教育委員会では、去る二十六日熊本県教育委員会あてに「荒尾市教育委員会の意見」を提出、荒尾市においては勤務評定実施に反対するとの態度を強硬に打出した。

× ×

熊本県教育委員会はすでに勤評実施のためその準備を着々とすすめているが、荒尾市教育委員会としては、なお研究期間を設け慎重審議する要望書を県当局に提出している。この要望書では(1)勤評実施は学校教育に悪影響を与えるとして ◎児童生徒への影響、◎保護者への影響、◎教師への影響を取上げ各項に亘つて具体的例を示している。(2)日本教育学会、教育政策特別委員会の発表要旨は尊重さるべきであるむねを強調、とくに勤評内容は教師の職務の本質に即し、方法は科学的であるかどうかをつくとともに、人事院規則、学校教育法などを例にあげて、勤評の不当性を主張している。

例えば「評定の留意点はきられるか」という項目について、この要望書ではこういつている。

「人種、信条、性別、社会的身分、門地、政治的所属関係、学歴経験、身体的条件などによつて左右しないこと」とあつてもそれが確保される保障はない。「性格、能力及び適性を評定する場合に勤務に関連のないものを考慮しないこと」とあるが、これはなかなか実行困難でありまた仮にできたとしても、評定者自身の性格が問題である。

今回県教育委員会への意見を提出するにあたり、荒尾市教育委員会としては、勤評反対についての反対理由に要望書にうたつている各項目がそれであると指摘している。

# 一齊休暇で闘う

## 勤評反対31カ所で抗議集会

東京都の幼稚園、小、中、高等学校の全教員四万五千人は二十三日勤務評定実施強行に反対して一せいに休暇闘争に入つた。高教組は同朝八時すぎ「生徒や父兄に迷惑をかけないため」実力行使中止を指令したが、そのほかの先生たちは予定通り午前八時から都内三十一カ所の小、中学校に集つて抗議集会をひらき、十一時から一万二千人が教育庁に陳情した。この朝父兄たちは子供を学校にやるかどうか、お互いに連絡しあつたり学校に問合せたりしていたが、事前に教組や先生たちから事情を説明された地域や労働者の多い居住区では、整然と一日休校が行われた台東区では「先生がんばれ！共に闘おう！」という都職労上野職安分会のビラが町町にばらまいていたなお、東京都教連は二十一日つぎの声明を発表した。

【都教連声明】

われわれは都教育委員会の問答無用という暴挙にたいし、ふんげきを感ずるものである。われわれは民主教育を守りぬく教師の良心から四万五千のゆるがぬ団結で勤務評定実施を阻止するため、人事委員会にたいし措置要求の行動をだんこ決行する。われわれはこんどさらに教育をうれえ、子供のしあわせをねがう父母とともに、勤務評定ふんさいのためだんことして運動をつづけるものである。

右声明する。

# 女工哀史は嫌

## 解雇反対闘争80日

殆んどが女工さんばかりという金沢市の丸大撚糸労組は、大量首切りに反対してすでに八十日間の闘いをつづけている。

丸大撚糸は倉敷レーヨン系列下のメーカーで労働者は一六九名（男二〇名、女一四九名）。争議の起りは不況を口実に組合活動家など十八名の解雇に始まつたが、これは撤回を勝とつた。ところが会社は二月十四日再び四十七名の大量解雇を通告してきた。

丸大労組では〃指令解雇〃にあくまで反対し、組合破壊と闘うとの方針を決定、全織同盟が出した仕事がないときは一時離職との案を否決して、だんこたる闘争に立上り、内職と行商を始め長期化の体制をととのえている。

には私にもその被害がまわつて来たが、二千名の大衆を前にしてフライパンをたたいたのはヘソの緒を切つて始めてだつた。

五月一日はメーデーだ。毎年まわつてくるメーデーではあるが、時の流れは早いものである。先輩たちが流血のメーデーをやつてから今回で二十九回目。戦後十三回目のメーデーを迎えることになつた昨年のメーデーはちようど労協中闘で在京中であり、中央メーデーに参加したが、今年ははからずも崎戸のメーデーに参加することになつた。

午前九時、小雨の中を強行開催したが、今日は特に佐世保地域代表二十名と全炭鉱加盟ではあるが、大島炭鉱労組から十五名の参加があつた。組合員、家族合せて四千名、崎戸地区では戦後最大のメーデーだと聞いたが、大牟田のメーデーの比ではないことは申すまでもないことです。だがスト中ではあり、組合員も家族も大いに張切つているし、プラカード一つにも古い言葉を憶い出させるが「撃ちてし止まん」「闘争を勝ち抜くまでは最後まで頑張ろう」という闘志が満ちあふれている。

スクラムを組んで歌う「幸せのうた」に働く仲間の団結がつくられていつているようだつた。水たまりの悪路も何のその、元気にデモにうつり正午に解散した。